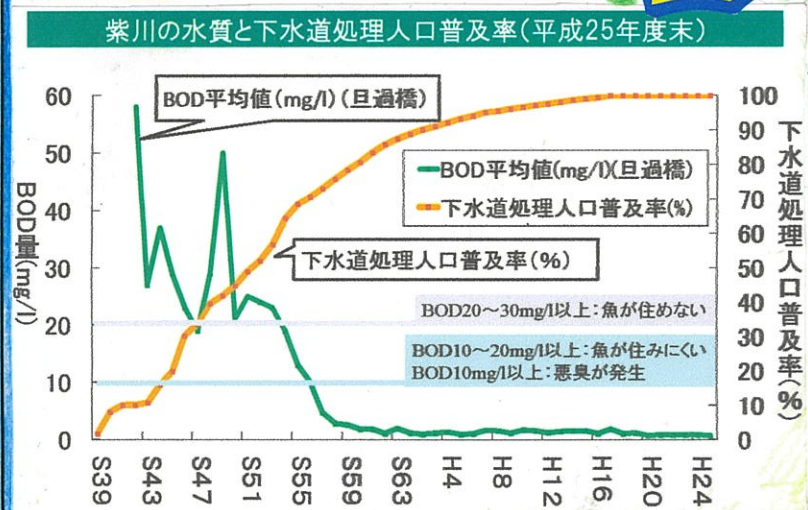


**紫川の昔と今**

福岡県の北部に位置する北九州の中心部を流れる紫川は、明治時代までは鮎がとれるほど清流だったが、高度成長期には工場から排出される産業排水や川沿いに林立した不法住宅から排出される生活排水によって極度に水質が汚染され、臭い川と呼ばれた。そして現在の紫川は、市民が奮然と町のシンボルと生まれ変わった。どうして紫川はキレイになったのだろう。

**学ぶ!**



↑ 下水道処理人口普及率の向上とともに紫川はきれいな川へ生まれ変わった。平成28年度末で普及率99.8%。全国大都市ランキング第4位!



**伝える!**

**編集後記**

小学生最後の夏休み、紫川を体感した川は生きてると感じた。未来にキレイな川を残すために、ぼくに今できることは何か考えた。学ぶ・体験する・伝える。この3つが大切だ。人間になる。一人が自然にやさしさを身につける。川を汚すのモ人間。川をキレイにするのも人間。ぼくはキレイにする人間になりたい。



**体験ね!**

**ぼくの夏休みチャレンジ**

**チャレンジ1 紫川大冒険**

紫川中流 桜橋付近から 走り点目指して 3泊4日の冒険にチャレンジした。前日の雨で川は増水し 足がどどかな場所もあった。また 3日目は ぼくの背より伸びたヨシをかき分けながら 前へ進んだ。きつかったけど 楽しかった。上流の水はつめたく きれいだった。

**チャレンジ2 紫川アクアスロン**

どど川と呼ばれていた川が泳げる川になり、7年前から大会が開かれるようになった。市民・行政・企業が一本となって取り組んだ「成果だ」といえる。大会に参加することで 環境問題を身近に感じられた。下流ももっときれいな川にしたいと思った。